

## ◀S·E·L·D·A·A▶

No.19

平成6年11月7日 発行

上智大学英語学科同窓会  
東京都千代田区紀尾井町7-1  
上智大学英語学科事務室 気付

Sophia English Language Department Alumni Association



## “My students and Myself”

上智大学英語学科講師 Kenneth G. Okimoto

**My students**

Perhaps the most noteworthy trend I've seen in my students in the four years I've been teaching here does not have to do with their attitude or aptitude, but with their experience abroad. It is richer and more varied than ever before.

In one of my freshman classes this year, for example, 90 percent of the students have been abroad, and 67 percent have lived abroad, the average number of years being 4.7. Those who

have lived abroad over 3 years include 50 percent of the class, those over 5 years, 28 percent, and those over 10 years, 8 percent. (The students in this last group have been abroad longer than they've been in Japan.)

Countries visited include the usual crop —the United States, Canada, England, Australia —but also a not-so-usual, lesser seen crop. These include Thailand, Malaysia, Hong Kong, Singapore, Russia, Spain, Mexico, Guatemala, El Salvador, Cuba, Brazil, Chile, even Africa.

Such a rich variety of experiences enhances the classroom environment in many ways. But it is also not without its problems. How do you teach a class, for example, where some students are completely fluent in English while others are not? What is fair in terms of testing, in terms of discussion? What needs to be done linguistically in order to maintain a high level of contact while at the same time making sure that the ideas are being communicated?

It's a challenge —one that keeps me devising new class strategies on a weekly basis. But it's also a good challenge, and one that is not without its benefits, as in those occasions when I get to see something work well.

**Myself**

I'm a Japanese-American, born and bred in Southern California. I studied at the University of California at Los Angeles, where I got my BA in English Literature and my master's in Playwriting.

Around the time I completed my undergraduate studies, Alex Haley's *Roots* was a bestseller. I never read it, but the idea took root, and I ventured over here, and now this is where I'm rooted. Pardon the puns.

I teach literature, composition, English Skills, translation, American Drama and Film, and an English class for Kikokushijo students outside the department.

My present goal is to continue revising my classes —reworking, sometimes reinventing them —to the point where I feel the students are getting the most out of them educationally. I figure in another year or two, I will have achieved this for one class. That's one out of six in five years. Better add this to my list of longterm goal as well.

# 1994年度BTF春期講座報告

実社会で活躍している英語学科卒業生の方が講師となり、「英語と社会」というテーマで、現役英語学科生に講義をするというユニークな授業です。以下、春期の講師の方々の方々の横顔と講義の内容を要約します。



4月22日

和田恵子氏(昭和47年卒) (有)和田翻訳室

和田氏は卒業後、いくつかの会社で働いた後に、自分の翻訳会社を設立した。二ヶ国語の翻訳以外に点字訳も始めた。間違いを絶対に許さない翻訳業の経験と、会社経営の苦勞を説明し、翻訳の収入で生活するのは難しいので、本職にしないようすすめた。

また身体障害者のために仕事をすると、他の先進国と比べて、日本はどれほど遅れているのかわかると指摘した。



5月6日

佐藤誠一郎氏(昭和53年卒) (株)ABC商会

エービーシー商会では、硫化材やタイルなどを扱っている。自社生産、他社生産、そして輸入のものも扱う。営業の仕事は設計図に使用材料を書き込み、それを施工するゼネコンにまわす。佐藤氏の勤務する総務部庶務課の仕事は、郵便物や貨物の受け渡し、車の管理などで、営業の仕事をサポートすることである。

佐藤氏は上司の命令をやみくもに受け入れるより、問題があるときには上司に反駁するという。それは公共性の観点から考えて、必要なことだと話された。



5月13日

春日豊彦氏(昭和44年卒) ミキモト(株) 社長

学生時代の春日氏は外国で働く商売につきたくて、AISECを通してカナダの企業で研修した。その後になぞかなお金で9ヶ月間世界一周をし、帰国した。卒業して安宅産業に入社、伊藤忠との合弁会社の関係で、ニューヨークへ行くこととなった。苦勞したが、力も伸びた。

仕事が行き詰まりそうになったとき、ミキモトに転職して出世した。能力もあった。社長の娘と結婚し、取締役、専務、社長となっていた。社長としての厳しいスケジュールと責任についても、話のはじめに出た。しかし生涯で成功することは、一生の目的を持ち、必要なときに生活を目的に合わせるにより達成できると話された。



5月20日

たくきよしみつ氏(昭和53年卒) 作家・音楽家

音楽家、また作家でもあるたくき氏は、人生観について語られ、真実の幸福と嘘を見分ける便利な道具として、エントロピーを紹介した。エネルギーを利用するときに、もう利用できない廃棄物、エントロピーが増える。エントロピーに注意しないと、人類の早期破滅につながる。この考えを環境汚染や情報汚染にもあてはめた。政府も企業も、情報を操作しながら権力を伸ばそうとする。用心しなければだまされる、と。

また牛乳パックのリサイクルについて。地球に優しいと信じてきたが、その真相に驚いた。リサイクルすることで森林破壊や汚染を更に拡大させているという。このようにたくき氏は、情報操作に惑わされず、的確な判断を養うことが重要と教えてくれた。

6月10日

小林 修氏(昭和40年 St.Norbert大学卒) (株)エンファシス代表取締役

小林氏は上智在学中にアメリカに留学し、マーケティングを専攻して卒業した。帰国後、いくつかの広告代理店を経て、国際広告制作会社、そして広告代理店、(株)エンファシスを設立した。日本から世界の媒体に広告を出す。またその逆も扱う。その際、元の国の言葉を翻訳するより、文化的背景を考えて、書き直してもらうことがある。国際的な仕事をする際には、特に文化の違いに気をつけなければと話された。

また不況の日本社会へ出るにあたって10のキーワード~Original、Fair、Beautiful、Clear speaking、日本人、目的、妥協、Data、好奇心、Computers~を示された。



6月24日

藤田 淳氏(昭和59年卒) 三井物産合成樹脂第1部

藤田氏はまず、三井物産での仕事内容を英語で説明し、その後日本語で講演した。総合商社の基本的役割は、物を流すことであり、メーカーがひとつの商品を売り込むためにモデルチェンジを重ねるのに対し、商社はあらゆる商品を扱い物流をする。営業が幅広い分野にわたるため、自分のアイデアを実現できる可能性に満ちているといえる。

取引の際、大学で学んだ心理学や文学が役立つこともあり、異文化コミュニケーションを図りながら道なきところに道を作ることにやりがいを感じたという。またアジア諸国の経済成長は目覚ましく、ビジネスの中心が欧米からアジアへ移りつつあることを踏まえ、今後、英語以外にアジアの事情と言語を学ばなければいけないと語られた。



7月1日

斎藤敬子氏(昭和48年卒) ILCC社長

入学前の意気込みとは裏腹に、テニスばかりの4年間。体育会ということで上下関係が厳しかったが、社会でもそのとおりで自然に組織に入れたという。

1年ほど会社で働いたが、70才まで仕事をしたい斎藤氏は、友人とILCCという会社を設立。翻訳、通訳の他、ECの対日輸出促進キャンペーンやAPEC会議、日本語学校の運営も手掛ける。

最初は兵隊とコーディネーターとして両方の仕事をした。今は、仕事や客を作る管理職だけに絞った。社員に求めるのは、技術や能力が半分。後の半分はいて欲しいときにいてくれ、最後まで成し遂げ、他の人と仲よくできることだと話された。



7月8日

松井宏之氏(昭和59年卒) 野村證券

松井氏は学部を卒業し、大学院も終了してから野村證券に入社した。サムライ債や、青目、茶目、黒目といった証券の業界用語を説明しながら、黒板に図を書き、わかりやすく証券業界と、その中の自分の国際業務を紹介した。

どこかの国が国債を発行して、資金を作ろうとしたときの証券会社の競争、そして契約ができたときの手続きの忙しさを描いた。利益が大きいから、月に2、3回の海外出張も、長い国際電話も、金額を全く気にしない。失敗した会社は10年位、その国の国債発行に応募できなくなる。ミクロネシアでの失敗談もあった。その政府に振り回されてから、国債にならない小さな金額の件だとわかったという。



# 「秒針を見つめる日々」



NHK番組制作局 サイエンス番組部  
チーフディレクター  
杉沢 礼(昭和53年卒)

TVの仕事をして16年。何日もの徹夜や、秒針を見つめる生活も、すっかり板についた。「ここは2フレ(15分の1秒)、長いかなあ？」などと言いながら、30代も終わろうとしている。1分とか1秒とかの世界に日々、もてあそばれていると、のんびり釣りでもして暮らしてみたいなどと思う。だが、その対価として随分と貴重な体験もし、様々な人々との出会いもあった。ほんの数秒の世界に、不思議な魅力も感じている。

幼い頃、初めて双眼鏡を手にしたとき、いつも見慣れた坂道や、遠くの家並みが、まるで異国の風景のように映ったことを、今でも覚えている。長い人生だが、脳裏に刻み込まれる深い記憶や、感動は、ほんの数秒の出来事なのではと思うのだ。そんな数秒の輝きをいくつも持てる人が幸せなのかもしれないし、TVの取材を通し、その瞬間を様々な人と共有できることが喜びなのだと思う。

英語科での日々を思い返すと、「人間学」の講座が妙に印象深い。人間は何のために生きているのか学ぶ授業なんて、今なら毎日でも受けたいぐらいだ。残念ながら、英語の方はさっぱりで、仕事でも殆ど縁がない。ただ最近、電車の中で、「法律事務所」「ペリカン文書」「依頼人」を立て続けに英語で読んだ。楽しかった。こんな趣味のひとつときを持つために、教室に通ったのかと思うと愉快だ。

番組作りでは、誰もが必ず「構成表」と言うものを書く。人生の構成表はいまだに書けずにいる自分は、学生時代の刹那主義も抜けないようだ。

## ソフィアズクラブで会おう!

既にソフィア会便り等でご存知のことと思いますが、上智大学北門かつらぎ館の隣、新宿通りに面して、ソフィアズクラブが10月1日からオープンしました。上智大学卒業のソフィアンが自由に使用できるクラブとして、いつでも誰でも使用できるオープンサロンと、予約制の会議室が2つ用意されています。

SELDAAでは、このサロンを利用し、定期的に英語学科卒業生が集まり、旧交を温めることのできる日、コーナーなどを決めようと考えています。詳しくは次号でご案内しますが、例えば毎月〇〇の日……サロンの中で目印を決めてアイデンティティする等です。良いアイデアがあったらお寄せください。皆さんのご意見を待っています。

家庭にいる女性同士も、ワーキングウーマンも、ビジネスマンも、出張族も是非、お互い誘い合わせて、懐かしい友と、また新しい友人の和を広げるためにも、大いに利用しようではありませんか。

# 「日独青少年ブラスバンド交流」



ドイツ在住  
史恵グランドシュタイン  
(昭和47年卒)

日本の高校生のブラスバンド演奏に感激し、結成されたドイツの『ベルンハルトワールド青少年ブラスバンド』一行が13日、新宿の都庁広場で開かれる火曜コンサートに出演する。メンバーは「地元バイエルンの楽しい音楽を披露したい」と張り切っている。

——1993年4月12日、読売新聞より

さて、ドイツ在住の史恵グランドシュタインさん(旧姓赤川)は、その1年半前、京都市の私立花園高校のブラスバンド

部を現地に紹介し、演奏会を開いた。花園高校ブラスバンド部は全国大会で優勝したことがあり、ドイツ公演も何度か行なっている。その際、通訳を務めた史恵さんは、見事な演奏を見て「ベルンハルトのみんなにも、是非、聴いてもらいたい」と思ったという。

日本から来た高校生たちの一糸乱れぬ演奏に、音楽好きな村人たちは感激。「ここにもブラスバンドを作ろう」と『ベルンハルトワールド青少年ブラスバンド』が結成された。彼らは、ビール祭りや宗教行事などを舞台に活躍。また一昨年、同バンドの10周年記念に、兵庫県の私立尼崎東高のブラスバンド部がお祝いに駆けつけるなど、日本の高校生たちとの交流も、盛んになる一方だ。こうした縁から、メンバーが「お礼のつもりで日本に演奏しに行きたい」と計画し、東京での演奏会が実現した。

このように史恵さんは、ドイツに在住して、日独の音楽交流に貢献されています。

(文：SELDA 佐藤)



## サロン・会議室利用は

- 月～金曜日 10:00～22:00
- 収容人数 各25名程度
- TEL 3238-3075

\*尚、サロンではビール、ウィスキー、コーヒーとおつまみ程度が用意されています。  
(食事は外部からのケータリングサービスとなります)

\*土・日曜日のご利用は、卒業生の事前予約のみ受け付けます。

# 「これからの英語学科を考える」

英語学科長 吉田研作

この半年、何が何だかよくわからないまま、英語学科の仕事をしてきましたが、ようやく学科の現場と今後の問題などが少しずつ見えてきたような気がします。現在の英語学科は、松尾学科長の時に行なわれたカリキュラムの大々的な改革が一段落し、更に、草深学科長によるブリタニカ奨学基金(旧野口奨学金を含む)、及びブリタニカ奨励基金の整備が本格的に始まり、新しい時代を迎えつつある、と言えるでしょう。そこで今回は、カリキュラムを中心に少しお話ししましょう。

現在の外国語学部では、単に「言語」を教えるだけでなく、それぞれの言語が使われている地域の総合的な研究により、多くの力を注ぐべく様々なカリキュラム改革を行なってきました。英語学科でもその例に漏れず、今までの学科科目を整理しなおし、アメリカ研究、英国・英語文化圏研究、言語コミュニケーション研究の3つの専攻にまとめました。更に、外国語学部全体の副専攻である国際関係研究、アジア文化研究をも主専攻として認める、という大きな改革を行ないました。今までに比べ、英語で講義される専門科目の増加などもあり、内容面での充実はかなり進んできました。

しかし、これからの問題としては、英語学科の最も大切な目標のひとつである「英語教育」についての再考があります。英語による講義を増やし、内容を重視することは大切ですが、同時に、英語力そのものの育成を充実させる必要があります。特に、英語を書く力、そして英語でディベート・ディスカッションができるよう、英語科目の内容の改善を行なう必要があります。また学生たちの語学学習への動機を高めるためにも、TOEICやTOEFLの様な能力テストの本格的導入も考えています。

今後の英語学科充実のために同窓会のご協力を仰ぐことも多くなると思いますが、よろしく願います。また、ご意見などありましたら、是非お聞かせ願いたいと思いますので、その点もよろしく願います。

## 「加藤信明君追悼集」のご案内

昭和47年英語学科卒業の加藤信明君は、1991年11月27日、癌のため43才で亡くなりました。

加藤君は卒業と同時にソニーに入社し、まさに世界を駆け巡るセールスマンとして飛び回っていましたが、1978年に上智に戻り、国文学科に学士入学。その後、修士、博士課程を終了されました。日本語学の世界で将来を嘱望され、亡くなる直前には三省堂国語辞典、第4版の編集という大事業を成し遂げられました。

学生時代の加藤君をご存じの方々には、彼の楽しい冗談やら悪戯を思い出されることと思いますが、この辞書の中にもそんな彼らしいセンスや語釈が隠されているように思われます。

加藤君の一周忌に、学生時代の仲間が協力し合って、追悼集を作りました。多くの方々に執筆していただき、新たな加藤君の再発見にもなりました。

追悼集を御希望の方には、余部のある限り、お分けしたいと思います。下記宛にお申し込みください。(郵送料も含め、無償とさせていただきます)

〒156 東京都世田谷区松原5-25-3

鶴田(岡本)孝俊 (昭和46年卒・東京銀行勤務)

TEL&FAX 03-3327-4435(自宅)



## 英語学科卒業生が著した本

英語学科卒業生もすでに、5,000名を越え、各業界・各地で活躍しています。その一端として、卒業生が著作、翻訳した本を今後、順次紹介してまいります。

〈著作本〉

「大統領の英語」	松尾式之著(昭和39年卒)	講談社刊
「英語リスニング上達の方法」	吉田研作著(昭和47年卒)	ジャパンタイムス刊
「レッツ英会話」	土屋宏之著(昭和40年卒)	岩波ジュニア新書刊

〈翻訳本〉

「マネービジネス」(クリストファー・ウッド著)	藤本 直訳(昭和43年卒)	朝日新聞社刊
「コンピュータ クラッシュ」(M. マクファーソン著)	丹野 真訳(昭和45年卒)	講談社刊
「名前のない手紙」「うちへ帰ろう」(B. バイアーズ著)	谷口由美子訳(昭和47年卒)	文研出版社刊

英語学科事務局では、卒業生の皆さんの著作・翻訳本をコレクションしています。古いものでも結構ですので、見本誌を事務室まで送付して下さるようお願いいたします。

## 「女性セミナーに参加して」

座間由美子(昭和43年卒)

今月の女性セミナーは、最近ロシアを訪問されたFr. ミヘルチッチにお願いし、ソ連崩壊後のロシアの街の様子など、地図を見ながらいろいろ話していただきました。日本と見比べて、その広大な面積に改めてびっくり。でもこの広さが災いして、物資の流通が上手くいかないのが悩みだそうです。品物はあっても、それがごく一部の上流の人たちの元集まり、一般庶民は店の食料品も高くてなかなか買えず、病院では薬品が不足して十分な治療も出来ないとのこと。また若者達は急激な価値観の変化に戸惑い、政局が不安定なので将来への夢も持てないというのが現状のようです。この小さな日本でも、人の心はひとつにならず、絶えずめ事を繰り返しているのだから、あの広いロシアをまとめていくのは不可能に近いのではないかと、ロシアに明るい未来はあるのだろうかなどと、いろいろ考えさせられました。冬にはマイナス40度近くになるという厳しい寒さの中で生活する苦勞、実際にあちらで暮らしていたときに困ったことなど、エピソードを交えながらのお話には、普通では知りえないロシア人の生活の一端を垣間見たような気がしました。

このように女性セミナーでは、激変する世界の生の情報を得るために、時に応じて、その国の事情に詳しい講師をお招きして、お話を伺い、一緒に話し合っています。家庭やそのまわりの狭い地域に飽き足りない方は、是非一度ご参加ください。

- 日時 原則として毎月第4水曜日 午前10:30～12:00
- 連絡先 世話人 41年卒 鈴木禮子 3321-3378
- 場所 かつらぎ館地下ホール
- 会費 3,000円/年
- 会 計 43年卒 吉田知子 3332-1840

### 1994年定例総会のご報告

1994年定例総会は、5月29日、大学の7号館で開催された。会長挨拶の後、増田光氏(昭和59年卒)が議長に選出され、議事に入った。

まず担当の常任委員より、BTF講座、女性セミナー、名簿・会報の発行、SELNET、野口基金の運用状況等についての活動報告が行なわれた。特にBTF講座については、始めてから2年間で卒業生を含め、20数名の講師を学外から招聘し、好評を得たが、初期の目的を達成したので本年前期で閉講したいこと、SELNETについては、求人数激減のため、一時休止したいこと、また野口基金については、大学側(英語学科)の同趣旨の基金と併せて運用したい旨の報告があり、了承された。活動報告の後、前年度決算と本年度予算が上程され、討議の後、原案どおり承認可決された。

最後に会長より、活性化のため、規約の範囲内で、より若い世代からも常任委員を選出したい旨の発言があり、これを了承、午後3時、総会を終了した。

## 決算・予算に関する報告

1993年決算および1994年度予算が、1994年5月29日に開かれた総会において承認されました。

### 1993年上智大学英語学科同窓会決算報告書 (単位:円)

	科目	予算	決算	備考
収 入	1 前期よりの繰越し	4,197,013	4,197,013	1992年度より繰り入れ
	2 入会金	100,000	142,000	1,000円×142人
	3 会費	2,000,000	2,707,000	2,000円×1,353.5口
	4 受取利息	120,000	125,372	普通預金、郵便貯金、債券等
	5 雑収入	0	10,000	寄付
	合計	6,417,013	7,181,385	
支 出	1 名簿作成積立金	500,000	500,000	1994年度発行
	2 名簿作成準備金	41,000	40,685	不明者リスト印刷代
	3 会報作成	500,000	437,363	会報16号、17号
	4 会報郵送料	630,000	563,604	会報16号、17号
	5 会報送料	80,000	64,699	会報16号、17号封入・局出し
	6 パーティ補助金	100,000	50,288	総会後パーティ
	7 女性セミナー	110,000	110,000	講師への謝礼等
	8 常任委員会運営費	50,000	7,500	定例総会・パーティ会場費
	9 事務処理費	350,000	336,396	封筒・振込用紙印刷、宛名ラベル等
	10 BTF講座運営費	200,000	174,695	講師交通費、文書費、講義記録等
	11 講演費	50,000	0	
	12 予備費	3,806,013	0	
	合計	6,417,013	2,285,230	
	差引収支		4,896,155	1994年度に繰り越し

会計監査委員石川雅弥(40年卒) 監査済み(1994年5月29日)

### 1994年上智大学英語学科同窓会予算 (単位:円)

	科目	予算	備考
収 入	1 前期よりの繰越し	4,896,155	1993年度より繰り入れ
	2 入会金	100,000	1,000円×100人
	3 会費	2,200,000	2,000円×1,100口
	4 受取利息	110,000	普通預金、郵便貯金、債券等
	5 雑収入	0	
	合計	7,306,155	
支 出	1 名簿作成積立金	500,000	1994年度発行
	2 名簿作成準備金	100,000	組み直し等備集費
	3 会報作成	750,000	18号、19号発行
	4 会報郵送料	740,000	18号、19号分
	5 会報送料	80,000	18号、19号封入・局出し
	6 パーティ補助金	100,000	
	7 女性セミナー	110,000	講師への謝礼等
	8 常任委員会運営費	50,000	会費
	9 事務処理費	370,000	封筒・振込用紙印刷、宛名ラベル
	10 BTF講座運営費	200,000	打出し代、振込手数料等
	11 講演費	50,000	講師交通費、文書費、講義記録等
	12 予備費	4,256,155	
	合計	7,306,155	

### 会員名簿来春発行 異動通知にご協力ください!

3年毎に発行される本会の会員名簿は、来春3月「1994年度版」を発刊する予定です。ソフィア会名簿を基に、正確で使いやすいものを作成すべく、準備を進めています。1993年版ソフィア会名簿発行後、変更のあった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方、同封のはがきにご記入の上、早めに投函してください。

今回は巻末に卒業生索引(五十音順)の掲載を考えていますので、名前の読み方を是非お知らせください。

また住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報を同封のはがきの通信欄を使ってお寄せください。皆様のご協力をお願いいたします。

### SELDAより、募集とお知らせ

- SELDAでは卒業生の方より、この会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、なんでも結構です。原稿に写真を添えてお送りください。
- OB、OGによる趣味のサークルメンバーを募ります。グルメの会、ハイキングの会など、現在活動しているものから、これから設立を考えているものまで、何かございましたらご一報ください。
- この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡お待ちしております。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先 英語学科事務室 TEL.03-3238-3719 本田由美まで

### 会費お支払いのお願い

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費で運営されています。事務局一同は、より一層の活動内容の充実と拡大を図っていく所存です。同窓会の円滑な運営のため、まだ会費の未納の方は、同封の振替用紙で最寄りの郵便局、または銀行より是非お支払いいただくようお願い致します。その際、卒業年度を記入してください。卒業年がありませんと、帳簿記入の事務処理がはかどりません。

尚、今まで一度も会費をお支払いいただいていない方は、入会金も併せてお支払い願います。

入会金：1,000円

年会費：2,000円(できれば3年分まとめて)

#### <会費お支払い状況>

封筒に貼付してある宛名ラベルの右上部をご覧ください。

朱書きの数字は、'94年度以降その年度分までの会費が支払われている。

数字の後に(1)とあるのは、その年度は年会費の1/2(1,000円のみ)が支払われている。

朱書きで"入"とあれば、入会金は支払われているが、'94年分の会費が支払われていない。

「朱書きのない」のは、今まで一度も入会金も会費も支払われていないことを、それぞれ表しています。

事務局長